

国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) について  
International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields (INWEPF)

北田裕道、○松浦宏、石田宰

Hikomichi Kitada, ○Hiroshi Matsuura, Osamu Ishida

### 1 国際水田・水環境ネットワークの概要

2003年3月、農林水産省は、国連食糧農業機関 (FAO) と共催で、第3回世界水フォーラム (京都) の一環として、世界各国の農業担当大臣が参加する「水と食と農」大臣会議を開催した。同会議では3つの挑戦「食料安全保障と貧困軽減」、「持続可能な水利用」「パートナーシップ」を掲げた大臣勧告が採択された。

2004年11月、この3つのチャレンジの達成に向け、日本 (農林水産省) が中心となり、アジア・モンスーン地域を中心に水田農業を実施している国<sup>1</sup>及び国際機関が参加する「国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF)」を創設した。INWEPFは、水田農業に関わる政府関係者等が、知識と経験を共有し、水田農業発展のために国際的な議論を行うフォーラムである。INWEPFの活動は大きく、①技術的・政策的な講演を行う「シンポジウム」、②概ね年1回開催して活動方針等を定める「運営会議」、③各テーマに沿って作業・議論を行う「ワーキンググループ (WG)」の3つにより構成される。我が国はこれまで、世界水フォーラム等の関連国際会議での情報発信を念頭に、WGの活動を通じた成果づくりをリードしてきた。WGの戦略 (テーマ) は、その時節における国際的な課題に合致するように幾度か改編がなされている。現在の第6フェーズ戦略では、図に示すように、我が国は、引き続きWG3のリーダー国として、水利用効率・水生産性の向上を考慮した政策・技術についての議論を進めることとしている。

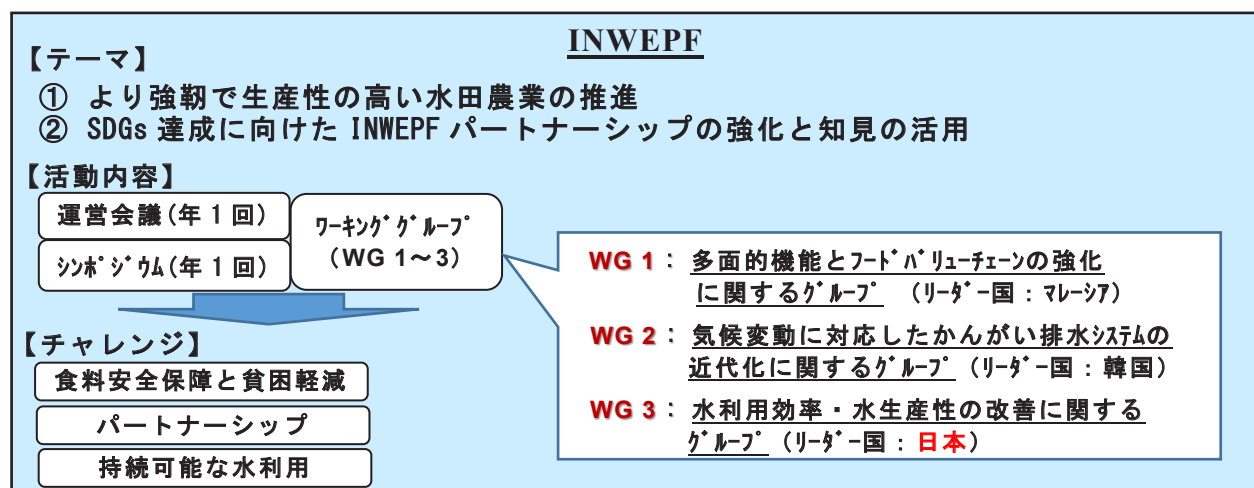


図 INWEPF 概要図

<sup>1</sup> 2021年末現在、17ヶ国が INWEPF メンバー国：バングラディッシュ、カンボジア、中国、エジプト、インド、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、ベトナム

## 2 第17回 INWEPF 運営会議（スリランカ）の開催

2021年11月2日、3日に、スリランカ主催にて第17回 INWEPF 運営会議及びシンポジウムがオンラインで開催された。同運営会議では、主に次の3点に関する議論が行われた。

### （1）第6フェーズの行動計画について

日本から、2022年から開始する第6フェーズのテーマに、「効率的水利用」、「新技術の活用」、「COVID-19の影響」の観点を盛り込むことを提案するとともに、水田農業を営むアフリカ諸国の参加を促進することについて提案し、了承された。

### （2）第18回運営会議の開催について

第18回運営会議を主催するエジプトから、COVID-19の影響により2022年内の開催が困難のため、2023年に延期して開催したい旨の提案があり、了承された。

### （3）2022年の活動について

上記を受けて、日本から、メンバー国が対面で会合に参集する重要性を強調するとともに、運営会議が行われない2022年は、ワーキンググループセミナー等の会議を開催することを提案し、了承された。

## 3 第4回アジア太平洋水サミット（APWS4）「水と食料」分科会の開催

2022年4月23日から24日にかけて、熊本にて行われたAPWS4において、農村振興局は、「アジア地域の農業部門における持続可能な水管理」をテーマとした「水と食料」分科会を主催した。同分科会は、国内関係機関の他、タイ、韓国、エジプト、FAO、IWMI等のINWEPFメンバー国・機関のオンライン参加の下、下野政務官が冒頭挨拶を行ったほか、松下滋賀大学教授、乃田岐阜大学准教授を含む5名のプレゼンターが発表を行い、3つの観点による提言の形で成果が取りまとめられた。

ガバナンス：水が農業生産や農村に与える正負の影響を総合的に評価し、それに応じた適切な水管理のためのルール作りや、経済メカニズムの導入を含む効果的なアプローチの実施が必要であることを提言

ファイナンス：農業セクターの水管理手法の改善に資するハード、ソフト対策への投資をより積極的に働きかける必要があることを提言

科学技術：農業の水管理分野においても、アジア地域において簡易に活用できる先端技術を開発することが重要と提言

## 4 2022年のINWEPF活動

2（3）の合意を踏まえ、2022年末、東京において「INWEPF合同WG」（仮称）を開催し、各WGの2022年の活動成果の共有と、2023年8月に予定されている第18回運営会議（エジプト）に向けた各WGの活動方針について、メンバー間で相互に確認することとしている。

農村振興局としては、水田農業の持続的な発展に向けて引き続きINWEPFの活動をリードし、世界水フォーラム関連会議の他、2023年に予定されている国連水会議等、水に関係する国際会議の動向を注視していくとともに、学術経験者のご支援を頂きながら、必要なインプットを行っていく。